

■ ご挨拶

皆さまには、平素より格別のお引き立てを賜わり、誠にありがとうございます。

このたび、平成25年度中間期の業績などについてご説明した「中間期ディスクロージャー誌2013」を発刊いたしました。ぜひご一読いただき、商工中金に対するご理解を一層深めていただければ幸いに存じます。

■ 金融経済環境

当中間期のわが国の景気は、政府の経済対策や日本銀行による金融緩和により個人消費や公共投資が増加したことに加えて、海外経済の持ち直しや円安の進行で輸出が増加し、緩やかに持ち直しの動きを続けました。

商工中金の「中小企業月次景況観測」において、中小企業の景況感は、個人消費や建設関連など非製造業で持ち直しの動きとなりました。製造業では原材料価格の上昇が収益の圧迫要因となるなど、先行きに対する不透明感が残っております。

■ 平成25年度中間期の回顧

このような環境のもと、商工中金は、東日本大震災からの復旧・復興やデフレ不況等による中小企業の皆さまの業績・資金繰りへの影響を踏まえ、危機対応業務を中心に、組織をあげてセーフティネット機能の発揮に取り組みました。平成23年5月より取扱いを開始した東日本大震災復興特別貸付の実績につきましては、3万7千件、2兆1千億円、円高デフレ等関連の危機対応業務の実績につきましては、3万6千件、1兆9千億円を超え、これらを合わせた危機対応業務全体の累計実績は制度開始以降、14万7千件、8兆8千億円を超える規模となりました。こうした、中小企業の皆さまの資金繰りや経営の安定化への支援を通じて、地域の雇用維持・経済の安定に大きく貢献することができました。

また、中小企業の皆さまの企業価値向上に向けては、平成25年4月に事業規模を新たに1兆円追加するなど支援内容を拡充・発展させた成長・創業支援プログラムを活用し、全力でサポートしました。同プログラムは、累計実績で1万2千件、6千億円を超えるなど着実に成果を上げることができました。

こうした取組みの結果、収支につきましては、貸出金の減少等により資金運用収益が減少いたしましたが、役務取引等利益が増加したこと等により、163億円の連結経常利益（単体では158億円）、82億円の連結中間純利益（単体では79億円）を計上することができました。この間の株主の皆さまならびにお取引先の皆さまのご支援に厚くお礼申し上げます。



■ 今後の業務運営

商工中金としては、求められる機能・役割の大きさを十分認識し、「中小企業組合と中小企業の皆さまの成長に貢献する」という使命の実現に向け、引き続き、東日本大震災からの復旧・復興に取り組む中小企業の皆さまを支援することはもとより、デフレ不況等の影響を受けている中小企業の皆さまを支援するなど、セーフティネット機能の発揮に組織をあげて最大限の対応を図ってまいります。

また、商工中金は「中小企業金融の円滑化」を目的とした金融機関として、その使命・役割を的確に発揮していくため、様々なノウハウやソリューションの提供などを通じ、経営改善はもとより、新たな設備計画に向けたサポート等、経営全般に亘ってバックアップするなど中小企業の皆さまの企業価値向上に向けた取組みを一層強化してまいります。

加えて、引き続き中小企業の皆さまに良質な資金供給を果たしていくため、債券（募集債）による安定調達に加え、個人・法人預金を主体に資金調達の基盤拡充に向けた取組みを一層強化してまいります。

これら諸課題への取組みを強化するとともに、一層の経営合理化を図ることなどによって、商工中金自らの健全な経営基盤の構築へ繋げてまいります。

厳しい環境が続きますが、「中小企業の、中小企業による、中小企業のための金融機関」として、皆さまから信頼され、支持され、これまで以上にお役に立てるよう、役職員一同、全力で努力を続けてまいります。

今後とも格別のご指導とお引き立てを賜わりますようお願い申し上げます。

平成26年1月
株式会社 商工組合中央金庫
取締役社長

杉山 秀二